

薬物療法学特論

《担当者名》教授 / 柳川 芳毅
准教授 / 木村 治

【概要】

免疫疾患、感染症、悪性腫瘍の疾患概念には関連する部分が多く、これらの領域を統合的に学修することは、より深い知識と論理的思考力の獲得につながる。薬物療法学特論では、これまでに学んだ免疫疾患、感染症、悪性腫瘍などの病態・薬物療法を統合的に学修し、これらの領域における論理的思考力を高め、それに基づく応用力を身に着ける。

【学修目標】

抗炎症薬を列挙し作用機序および臨床適用を説明できる。
アレルギー疾患の発症機構と病態を説明できる。
アレルギー疾患治療薬を列挙し作用機序および臨床適用を説明できる。
自己免疫疾患の発症機構と病態を説明できる。
免疫系に作用する薬物を列挙し作用機序および臨床適用を説明できる。
感染症の発症機構と病態を説明できる。
感染症治療薬を列挙し作用機序および臨床適用を説明できる。
悪性腫瘍の発症機構と病態を説明できる。
悪性腫瘍治療薬を列挙し作用機序および臨床適用を説明できる。
消化器系疾患の病態に関する基本的事項を説明できる。
消化器系に作用する医薬品を列挙し作用機序および臨床適用を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	炎症・アレルギーに作用する薬物	代表的なステロイド性及び非ステロイド性抗炎症薬の作用機序、適応、副作用を説明できる。 代表的なアレルギー治療薬の作用機序、適応、副作用を説明できる。 関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標 E2-(2)- -1,2, -1,3~5, -1	柳川 芳毅
2	アレルギーと自己免疫疾患	代表的なアレルギー疾患の発症機構と薬物療法を説明できる。 代表的な自己免疫疾患の発症機構と薬物療法を説明できる。 関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標 E2-(2)- -1,3~5, -6~8, -1,3	柳川 芳毅
3	感染症治療薬	代表的な感染症治療薬の作用機序、適応、副作用を説明できる。 関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標 E2-(7)- -1,2, -1~6, -1	柳川 芳毅
4	感染症の病態・薬物治療	代表的な感染症の発症機構と薬物療法を説明できる。 関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標 E2-(7)- -1, -1~10, -1~6, -1,2, -1,2	柳川 芳毅
5	抗がん薬	代表的な抗がん薬の作用機序、適応、副作用を説明できる。 関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標 E2-(7)- -1~3, -1~3, -1	柳川 芳毅
6	がんの病態・薬物治療	代表的ながんの発症機構と薬物療法を説明できる。 関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標 E2-(7)- -4~6	柳川 芳毅

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
7	消化器疾患	上部消化管疾患の症状と薬物治療を説明できる。 炎症性腸疾患の症状と薬物治療を説明できる。 《関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標》 E2-(4)- -1,2,6~9	木村 治
8	消化器疾患	肝臓・胆道・膵臓疾患の発症機構と薬物療法を説明できる。 肝臓・胆道・膵臓系に作用する薬物の作用機序、適応、副作用を説明できる。 《関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標》 E2-(4)- -3,4,5	柳川 芳毅

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験の成績により評価する（100%）。試験終了後、正答を公開し問題の解説を行う。

【教科書】

1. 「パートナー薬理学 改定第4版」石井邦雄、栗原順一、田中芳夫編（南江堂）
2. 「コンパス薬物治療学 改訂第2版」原明義、小山進編（南江堂）

【備考】

必要に応じて講義プリントを配布する。

【学修の準備】

予習としては、次回の授業範囲に相当する教科書を読んで疑問点を明確にしておくこと（80分）。
復習としては、配布プリントなどを活用し、講義内容を再度理解し、次回の講義に備えること（80分）。

【関連するモデル・コアカリキュラムの学修目標】

- E2 薬理・病態・薬物治療
(2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬
【 抗炎症薬】1~3
【 免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】1~9
【 骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】1,3
【 化学構造と薬効】1
- E2 薬理・病態・薬物治療
(7) 病原微生物（感染症）・悪性新生物（がん）と薬
【 抗菌薬】1,2
【 抗菌薬の耐性】1
【 細菌感染症の薬、病態、治療】1~10
【 ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】1~6
【 真菌感染症の薬、病態、治療】1,2
【 原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】1,2
【 悪性腫瘍】1~3
【 悪性腫瘍の薬、病態、治療】1~13
【 化学構造と薬効】1
- E2 薬理・病態・薬物治療
(4) 呼吸器系・消化器系の疾患と薬
【 消化器系疾患の薬、病態、治療】1~9

【【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】】

2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。

【実務経験】

木村 治（薬剤師）、柳川 芳毅（製薬企業において創薬研究に従事）

(2026年度・薬学部)

【実務経験を活かした教育内容】

薬剤師としての実務経験または創薬に携わった経験を活かし実践的な教育を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している